

CASBEE 広島 2016年版 (仮称)ヴェルディ舟入南		■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)				
スコアシート 実施設計段階		欄に数値またはコメントを記入				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50	
1 開口部遮音性能	住戸のサッシはT-2を基本とする。	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	コンクリート躯体は厚200以上を確保している。	5.0	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		4.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>4.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		4.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用		<b>5.0</b>	0.43	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率	居室に対して開口の大きいサッシを採用している。	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	カーテン、庇を組み合わせて制御。	5.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
1 昼光制御		-	-	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.21	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.36	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	住戸内建築材料はほぼF☆☆☆☆を使用。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		5.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.5</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>1.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		4.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		4.0	-	-	-	
3 内装計画	共用部は美観に努め、住戸内は利便性を高める。	4.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>2.9</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級が等級2相当である。	4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
3.1 空間のゆとり			-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		4.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		4.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>2.8</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		隣棟間に空間を設け、圧迫感をなくすように建物を配置した。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] : -	<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		4.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		設備機器は節水用、節水機能のものを使用する。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>2.6</b>	0.20	-	-	<b>2.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>2.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		2.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 地球温暖化への配慮		広島市緑化推進制度の緑化面積を確保している。	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.6</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	